差異は認められない。

3) 黄金錦, 黄金都 此等の種類は葉は黄綠色を呈し特に分蘗期前後から出穂期前後にかけて容易に正常のものと區別される。かかる時期の葉を検するに全細胞は葉綠體を含むが葉綠體の大き正常のものよりも小で黄綠色を呈し且つ一細胞内の葉綠體数が少い(圖 7)。次にかゝ

圖 7. 黄金錦 8. 黄金錦, 帶綠色時期

る種類の稻が稍綠色を帯びて來た時に同様に檢鏡した處第 8 圖に示す様に綠色と黄綠色とのほぼ同大の二種類の葉綠體を含有してゐた。即ち一部の葉綠體が大きをますことなく正常の綠色を呈するに至つたものと見られる。

稻に於てはある細胞に於ける葉綠體の缺乏が隣接細胞内の葉綠體數の増加を來すやうな事はない。

新血液型質及其の遺傳に就て*

和田 彌三郎

京都微生物研究所

舊血液型質の Untergruppe に就きては確實なる實驗的根據の上に外國並に本邦の學者により主張せられ毫も動かすべからざるに至れり。

法醫學上注意を惹くは Landsteiner と Leviene (1927) により發見せられたる M. N. なる二種血液型物質の知見なり。

M. N. なる Blutfactor に対する凝集素は人の血清中に認むることは出來ざるも人血球を家兎に注入する時は既知血液型 A に対する α , B に対する β 等の凝集素の他に之れとは全く無關係に新 Faktor に対する特異抗體を生じ、此家兎血清を用ふることにより人血球中 AB なる既知の型物質の他更に MN 等の型物質の存在することを多くの追試により各民族即白人, 日本人, 黑人 (95,732 例) に就き通覽するに M のみを有するもの約 30%, N のみを有するもの約 20%, MN を共有するもの約 50% と云ふ割合なり、然るにアメリカインデアンは M は 60%, N 4.9%, MN は 35.1% にしてアイヌは M は 17.9%, N は 31.9%, MN は 50.2% の如き特別の割合を有

* WADA, Yasaburo, Über die neuen Bluttypen und deren Vererbung.

すといふ。

既知の血液型質には人により全く缺く者即ち O 型の人あるも、(一) 新血液型質は總ての人が之れを含有し、(二) 之れが終生不變に止まること、及 (三) M と N なる二對立形質がメンデルの法式により遺傳するを以て、之等の事實に則りて法醫學上に應用し、既知の血液型によりて判定し得ざる場合をも解決することを得るなり。

其他諸家の研究により動物の血清中に自然に存在する特殊の凝集素を利用して、既知血液型質及 MN 式血液型質とは全く無關係に人血液型を細別する研究業績多數に現はれたり。例へば豚の正常血清中に含有する凝集素に依つて證明し得る新凝集原 Q は既知の血液型及 MN 式血液型とは全く無關係に人の血球に於て證明せられ、Q を有するもの (Q) と Q を有せざるもの (q) との割合は Q 約 30%, q 約 70% の比なり。

遺傳的關係も既知血液型と無關係に遺傳せらる。Q は q に對しては優性にして Genotypus に於ては QQ 型、Qq 型、qq 型の三種を區別することを得て、メンデルの法則により遺傳す。

又鰻の血清中に存在する凝集素に依り凝集するものを E, せざるものを e とし、此 E 及 e は共に遺傳的形質として一定の法式により遺傳するものゝ如く目下研索中なり。

以上述べたる既知血液型 (AB), 及 MN 式血液型質, Q 血液型質等の遺傳法則を利用して法醫學的應用に資すれば其效大なり。然れども此 MN 及 Q 等の凝集素は人血清中に自然に存在せざるを以て輸血に際しては何等の意義を有せず。(第八回京都市談話會講演要旨, 二月二十七日, 1935)

タラバガニとヨコエビの染色體*

新 山 英 二 郎

北海道帝國大學理學部動物學教室

(a) タラバガニ *Paralithodes camtschatica* の染色體

タラバガニは甲殻類十脚目に屬するもので北海に多産し食用に供され、罐詰として市場に有名な蟹である。用ひた材料は厚岸産のもので何れも成體(雄)である。固定液としては蒸溜水又は海水で薄めた弱フLEMING氏液並びに蒸溜水又は海水で $\frac{1}{5}$ に薄めたSHAMBER氏液を用ひ、凡て良結果を得た。

精原細胞 (diploid) には 208 個の染色體が數へられる(第一圖)。染色體の形は棒状のものから點状のもの迄種々の大きさのものが存在し、別に特別な形態のものは見出されない。稀に V 狀に曲つた染色體が見られる事があるから、恐らく棒状の或るものが何かの影響で一時的に曲つたものであるやうに思はれる。精母細胞 (haploid) には第一及第二共に 104 個の染色體が存在する。精母細胞の分裂中に於ける染色體の行動を詳細に觀察したけれども、性染色體と認められるやうな特殊な染色體の存在は確められなかつた。

最近甲殻類十脚目中の *Pandalus borealis* (Leopoldseder, 1934) と *Telphusa fluviatilis* (Delpino, 1934) の精母細胞の分裂に於て特異な行動をとる染色體が指摘され、これを性染色體なりとして

* NIYAMA, H., The chromosomes of *Paralithodes camtschatica* and *Gammarus amandalei*.